



日・ウルグアイ投資協定の交渉について

ウルグアイと投資協定を結ぶ意義

- 巨大なメルコスール市場（GDP3.3兆ドル，人口2.8億人）へアクセス。日本企業にとっての今後の有力な進出拠点として，ウルグアイの投資環境を整備。
 - メルコスール域内自由貿易の制度，ウルグアイの各種投資・輸出促進制度を通じ，巨大なメルコスール市場へ有利な条件下でアクセスする拠点としての進出が期待される。
- 資源，インフラ，農業等の分野で高い潜在性を持つウルグアイとの関係強化。
 - 港湾等のインフラ事業，石油開発等のエネルギー分野，大豆等農業分野等で更なる投資拡大が期待される（2006年から2010年の海外からの直接投資額の伸びは年平均30%）。
- 外国投資促進制度を多数導入。自由で開かれたウルグアイとの関係強化を通じ，プラスの流れをメルコスール全体に拡げていく。
 - メルコスールの中でもビジネス環境の優れたウルグアイと関係を強化することで，他の南米諸国への前向きなメッセージを発する。

ウルグアイの重要性

●メルコスールへのゲートウェイ

-メルコスール*加盟国。自由貿易の制度を通じ巨大な域内市場へアクセスするための輸出拠点として重要。

*メルコスール（南米南部共同市場）：ブラジル，アルゼンチン，ウルグアイ，パラグアイ，ベネズエラが加盟する関税同盟。域内貿易は原則として関税ゼロの自由貿易圏を形成。GDP3.3兆ドル，人口2.8億人。

-多数の外国投資促進制度（各種免税措置，輸出額の一部還付等）を導入し，自由で開かれた貿易・投資体制。

●南米のロジスティックセンター

-ブラジル，アルゼンチン，パラグアイ，ボリビアと水路で連結。

-国内の港，空港は全てフリーポートであり，輸出基地・中継基地としての役割を果たす。

●食料・エネルギー供給源としての潜在力

-大豆の生産は世界8位（最近10年間で1万トンから182万トンに拡大）。

-国内の15の鉱区で石油探査事業を実施予定。鉄鉱石採掘事業も開始予定。

●国内政治の安定性

-政策・制度の高い透明性（南米で2位，世界で20位）（世界経済フォーラム2012）

-高い民主化指数（南米で1位，世界で17位）（The Economist Intelligence Unit 2011）

ウルグアイ各種データ

- 在留邦人数：384人
- 駐在日系企業数：10社（2011年10月）
- 面積：17.6万km²（日本の半分弱）
- 人口：約337万人
- 一人当たりGDP：13,866ドル
- 2005～10年の平均経済成長率：約7%
- 2006～10年の海外からの直接投資額の伸びは年平均30%。2010年は前年比48%増の約24億ドル。
- 日本からウルグアイへの投資として，これまで自動車部品，農業，電子機器メーカー等の企業が進出済。現時点での進出企業数は10社と少ないものの，メルコスール市場に参入するための拠点としての進出や，同国の港湾等のインフラ事業等において更なる投資拡大が期待される。

交渉の経緯

- 2012年10月29日：予備協議を開催（於：モンテビデオ）
- 2012年11月7日：外相会談にて正式交渉開始を決定（於：東京）
- 第一回交渉会合のスケジュール等は今後調整。

